



子どもたちにとって、「学校」は特別な場所。

「学校」は特別な場所。学校へ行けば、友達に会える。先生に会える。みんなに会える。

タイトルにした「友達がみんなが待っている学校へ」は、今年のフレズソング「学校へ行こう」の歌詞の中の言葉です。新庄小学校では、学

期ごとに2回「フレズデー集会」という全校集会を行っています。フレズデー集会では、毎回さまざまな活動を取り入れながら、日常生活を見つめ直したり、自尊心を高める活動を行ったり、学校のスローガンの一つである「やさしく」に向けての目当てを作ったりなど、そのテーマソングとなるのがフレズソングです。委員会活動での話し合いの中で、「『友達がみんなが待っている学校へ行こう』という歌詞がいいなと思う。みんながこんな気持ちになったらうれしい」「歌詞の『笑顔で』や『みんなの笑い声』という歌詞が目指す学校の姿にぴったり合う」という思いからこの歌が選ばれました。

5

月11日、第1回フレズデー集会を行いました。新しく仲間になった1年生を含むファミリー班（異なる年齢班）の友達とも

っと仲良くなるために「電車ごっこリレー」という活動をしました。真ん中が切り抜かれた新聞紙に2人入り、新聞紙が破れないように、リレーをします。この活動から、子どもたちは友達の様子を見ながら息を合わせることの難しさを知り、同時に、息を合わせることができた時のうれしき、難しかった時の達成感を味わっていました。

毎

日通う学校。時には、うまくいかないこと、嫌なこと、いろいろあると思いますが、自分を



受け入れてくれる友達が待っている。一緒にがんばろうとしてくれる友達がいる。そんな学校を43人の児童と教職員全員で作っていき

たいと思っています。

（新庄小学校 人権教育主任 田中 晶子）

環・境・市・民
～感激！エコ発見～

エコちゃん
—第20回—



これらの取り組みを支える村上さんの姿がありました。

二酸化炭素の排出を削減し、環境に優しいバイオディーゼル燃料（BDF）は軽油の代替燃料として使われています。これは菜種油など生物由来の油のほか、家庭で使われている天ぷら油などの廃食用油が原料となっています。南丹市では昨年からは本庁と支所で天ぷら油の回収を始めましたが、その取り組みが地域や団体に広がっています。園部町小山西町区では6月から毎月ペットボトルの回収日、廃食用油の回収が始まりました。初日の6月8日、セッションにはいつも通り、



今回のエコジスト
村上定一さん
（園部町小山西町）

村上さんはごみを持ち込む方々や通りがかる子どもたちにも元気に声をかけます。小山西町の衛生委員補佐となつて5年目。資源ごみの回収日には欠かさず、朝6時からセッションに立ち、その都度声を掛けて、世帯数780という大きな地域でも細かい分別が浸透しています。「最初は嫌がられたけど、今はみんな友達油の回収も早くみんなに知ってもらいたいです。このセッションはごみを出すだけでなく、気軽に話をして、楽しめる場にしたいですね」。

ほかにも村上さんは地域のお年寄りに声を掛け、公園の美化活動をして交流の場を作っておられます。「家にいるよりに外に出てきてもらって、みんなに元気になってほしいです。健康が一番！」。

（環境課）